

平成30年度大学院地球社会統合科学府

修士課程（冬季）入学試験

入学試験問題

⑩ 言語コミュニケーション・言語教育

注意事項

1. 問題は「はじめ」の合図があるまで開けないこと。
2. 試験開始後、解答用紙に受験番号等を明記すること。
3. 解答用紙は、必ず全部提出すること。
4. 問題冊子は持ち帰ってよい。
5. 指定の解答用紙を用いること。

【共通問題】

問1. 次の1~18から6つ選び、それぞれ具体例を挙げて説明しなさい。

(20点×6=120点)

1. 母音交替
2. 限界性(telecity)
3. André Martinet
4. 補充法 (suppletion)
5. 内部屈折 (internal inflection)
6. 言語連合 (独 Sprachbund, 英 linguistic alliance)
7. やさしい日本語
8. 文化スキーマ (culture schema)
9. ホフステッド・モデル (Hofstede model)
10. 社会構成主義 (social constructionism)
11. エスノメソドロジー (ethnomethodology)
12. ナラティブ・パラダイム (narrative paradigm)
13. 美化語
14. エピソード記憶 (episodic memory)
15. 構造化インタビューと半構造化インタビュー
16. 意味交渉 (negotiation of meaning)
17. 共通基底言語能力 (Common Underlying Proficiency)
18. ヨーロッパ共通言語参照枠 (CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)

【選択問題】

問2. 次のⅠ~Ⅸから2つ選び、それぞれについて解答しなさい。選んだ問題の番号を解答用紙に書きなさい。(40点×2=80点)

Ⅰ 継承語の維持とは何か、具体的な事例を示しつつ説明しなさい。(40点)

Ⅱ 言語獲得及び第二言語習得における臨界期仮説(critical period hypotheses)の定義とこれまでの先行研究を概観し、その是非について具体例を挙げながら自分なりに論じなさい。(40点)

Ⅲ 言語習得(特に母語獲得)について以下の(1)~(4)の問いに答えなさい。(40点)

- (1) スキナー (Skinner) に代表される行動主義の言語習得観を説明しなさい。(10点)
- (2) 行動主義に対するチョムスキー (Chomsky) の批判と、チョムスキーの言語習得理論の特徴を述べなさい。(10点)
- (3) チョムスキーに対するトマセロ (Tomasello) の批判と、トマセロの言語習得理論の特徴を述べなさい。(10点)
- (4) あなた自身は言語習得についてどのように考えるか、どのような立場を取るか、理由を挙げて述べなさい。(10点)

#### IV 音韻論に関する以下の(1) ~ (3) の問いに答えなさい。(40点)

- (1) 括弧の中に最も相応しい言語学の術語を各々入れなさい。ただし、同じ記号には同じことばが入ります。(各2点×5=10点)

・音声学は、話し手が音声器官をどのように動かして音声を発するのかを扱う(ア. )、発せられた音声が空気中で物理的にどのような状態であるのかを扱う(イ. )、聴き手が音声をどのように認識するのかを扱う(ウ. )の3つに大別される。

・音声言語において、文中の一部の要素に焦点を当て、発音上強調することを(エ. )と言い、強調された部分には(エ. )がある、と言う。例えば、「福岡でもつ鍋を食べた」という文があるとして、もつ鍋を食べたのは「佐賀で」ではなく「福岡で」だ、という意味であれば、「福岡で」という部分に(エ. )が置かれる。あるいは、福岡で食べたのは「水炊き」ではなく「もつ鍋」だ、という意味であれば、「もつ鍋を」という部分に(エ. )が置かれる。

・音声言語において、数量や程度に関わる語を目立たせて発音すると、語の意味それ自体が強められることがある。例えば、「あの人、すごい」という文の「すごい」を「すごーい」のように強調して発音すると、「すごい」の意味が強化され、「非常にすごい」という意味になる。こうした類の強調のことを(オ. )と言う。

- (2) 「高低アクセント」と「強弱アクセント」の共通点と相違点について、具体的な言語名を挙げながら、なるべく仔細に述べなさい。(15点)

- (3) 「喉頭化 (glottalization)」について、具体例を挙げながら、なるべく仔細に説明しなさい。(15 点)

V 議論に関する以下 (1) (2) の問いに答えなさい。(40 点)

(1) 下記の文章中で述べられている 2 種類の “argument” (O’Keefe, 1977, p. 121) を区別する特徴について具体的な会話や文章を例示して説明しなさい。(20 点)

(2) その区別が英語の表現に依存するものであるのかどうかについて他の言語の例を挙げて考察しなさい。(20 点)

WEB 公開版では、著作権法上の問題により、問題文原文を削除した。問題文は議論の概念に関する英文 6 行

VI 日本語と英語の相違に関する以下 (1) ~ (4) の問いに答えなさい。(40 点)

(1) 日本語の「彼」「彼女」は、英語の **he**、**she** は品詞という観点から考えて全く異なる特徴を持っている。それはどのような特徴か、具体例を挙げて説明しなさい。(10 点)

(2) 日本語では、英語では **you** が使われる場合に、第一人称が使われることがある。どのような場合に使われるのか、具体例を挙げて説明しなさい。(10 点)

(3) 日本語では、英語の **I** にあたるものが第三人称で表されることがある。具体例を挙げて説明しなさい。(10 点)

(4) 上記の議論から、日本語の人称詞と英語の **I you he she** 等にはどのような相違があると言えるかについて議論しなさい。(10 点)

VII テンス・アスペクトに関する以下の (1) ~ (3) の問いに答えなさい。(40 点)

(1) 次の下線部の「た」「ていた」の用法を簡潔に説明しなさい。(2 点×5=10 点)

- すみません、お名前は何とおっしゃいましたたけ。
- (友達を見つけて) あっ、あんなところにいた。
- 私は昨日図書館で勉強していた。

- d. あなたから電話があったとき私はすでに2時間も図書館で勉強していた。
- e. それが分かっていたら私はもっと勉強していた。

(2) 次の会話文を読み、以下の質問に答えなさい。(10点)

A: このあいだ奄美大島に行ったんでしょ。どうだった。

B: いやあ、実にいいところ {だった/だ} ね。

Aの質問に対して、Bは「だった」「だ」のいずれを用いても答えることができる。「だった」を用いた場合と「だ」を用いた場合の違いを簡潔に説明しなさい。

(3) 語彙アスペクトと文法アスペクトの違いを日本語あるいは英語の具体例をあげながら簡潔に説明しなさい。(20点)

**VIII** ケラー (J.M.Keller) は学習意欲が4つの構成要素に分類できることを見出し、ARCSモデルを提唱している。これに関連する以下(1)(2)の問いに答えなさい。(40点)

(1) ARCSモデルとはどのようなモデルか、4つの構成要素と学習のステップを具体的に示しつつ説明しなさい。(20点)

(2) ARCSモデルに基づく日本語授業をデザインする場合、どのような学習支援方略が必要になるか、4つの構成要素をもとに、それぞれ具体例を示しなさい。(20点)

**IX** コロケーションに関する以下の(1)(2)の問いに答えなさい。(40点)

(1) コロケーションの定義を述べ、言語研究あるいは言語教育における重要性について論じなさい。(20点)

(2) コロケーションの強度を測る指標について、具体例を1つ挙げて説明しなさい。(20点)